

志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会 第1回委員会 議事概要

- 1 開催日時 : 平成23年12月12日(月) 10:00~12:00
- 2 場 所 : さつき会館(島根県飯石郡飯南町八神117-1)
- 3 出席委員 : 山碕英樹委員長、山下潔委員、天津芳郎委員、植田充弘委員、平山大輔委員

4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 挨拶 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長
- 3) 出席者紹介
- 4) 委員会の設立
 - ①規約審議
 - ②委員長の選出、挨拶
- 5) 議事
 - ①志津見ダム水源地域ビジョンの策定手法について
 - ②志津見ダム水源地域ビジョンの理念・目標・基本方針について
- 6) 閉会

5 配布資料

- ・資料1: 志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会規約(案)
- ・資料2: 水源地域ビジョンの概要
- ・資料3: 水源地域ビジョン策定事例
- ・資料4: 志津見ダム水源地域ビジョン策定手法について
- ・資料5: 志津見ダム水源地域ビジョンの理念・目標・基本方針について

6 議事要旨

1) 委員会の設立

- ・志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会規約(案)についての審議を行い、承認された。
- ・規約に従って委員長の選出を行い、委員長には山碕委員が選任された。

2) 議事

①志津見ダム水源地域ビジョンの策定手法について

- ・基本的には、事務局からの提案に沿って、水源地域ビジョンを策定して行く。
- ・下流域の皆様の参加も志津見ダム水源地域ビジョンに盛り込むよう検討する。
- ・地域の意見・提案を聞く「志津見ダムの活用を語る会」の運営や意見集約等については、事務局に一任する。ただし、構成メンバー等は状況に応じて柔軟に対応すること。

②志津見ダム水源地域ビジョンの理念・目標・基本方針について

- ・志津見ダム水源地域ビジョンは、「志津見ダム湖周辺活用計画」(H14.3)をベースとして、この計画で整備された施設等を活用した地域づくりを進めるための行動計画とする。
- ・この地域の貴重な歴史、文化、人に誇りをもち若者が積極的に住んでいく地域づくりを念頭におく。
- ・地域の目標像は、「みんなでつくる みんなのふるさと 笑顔あふれる しあわせの里」とする。
- ・基本方針は、「美しいふるさとづくり」「明るく元気で豊かなふるさとづくり」「人が集まるふるさとづくり」とする。
- ・基本理念及び基本方針の内容については、委員会での意見と語る会での住民意見を反映させて策定する。

③各委員からの主な意見

- ・志津見ダムは地域に根ざして、地域はもちろん地域外の方からも愛され、親しまれるダム湖にならないといけない。
- ・地域資源といっても、ひとつひとつみがき、一人前にしていくのは並大抵なことではできない。
- ・志々地域の美しい八景づくり、八つの柱の神様、志都美径（出雲風土記）などのすばらしい歴史文化を地域のふる里づくり、みんなの、飯南町あるいは島根県のふる里づくりに資していけるようなビジョンにしたい。
- ・集落のあり方というのは「孫の代に集落が維持できる」そんな考え方で地域づくりを進めてきた。
- ・子供がこの地域に残ってもいいと思えるような郷土愛の育成につながる教育が必要である。
- ・この地域が将来的に残っていくというのが大前提である。高齢化の問題、後継者の問題もあるが、人がこの地域に集まっていただく方が必要。
- ・事業当初からの状況も変わり、財政的な問題、過疎化、高齢化、少子化といった負の部分もあるが、平成14年に作られた周辺施設の活用計画では「背伸びをしない、地域資源を活かした」という理念があり、これは「地に足をつけた取り組み」と思っている。
- ・すでに10年20年続いて定着してきたイベントもあり、今後も継続しながら交流事業にいかに関与するか、他地区からいかに人を呼びこんできて賑わいをつくるかが施策の一つになる。
- ・地元の皆様と地元行政の知恵を借りながら、県も支援し、一緒になって取り組んで行きたい。
- ・イベントをすれば確かにその時は人が集まるが、常時ある程度の人に来てもらうためには他の観光地との連携が大切である。
- ・この地域には南北に国道184号、東西には主要地方道川本波多線が走っており、幹線が十字に結んでいるのでこれを利用しない手はない。
- ・尾道松江道路が来年度末には完成し、交通の流れが変わる。例えば、三瓶山へ観光する場合には、今までは観光ルートではなかったものが、吉田掛合ICを利用してこの地域が大きな観光ルートになる可能性もある。
- ・国道54号沿いの道の駅と連携して交流ができないかと考えている。
- ・非常に歴史がある地区であるため、歴史や文化を引き継いでいく、広めていくことができればと思っている。
- ・孫の世代まで、ここに住みたい、暮らしたいと思える地域を作っていくために、語る会では若い世代の意見も聞きながら、いい思い出、いい体験ができる場を提供できるよう進めていきたい。
- ・ボランティアやNPOだけでは地域作りは難しいため、人と物が動いて何らかの収入が得られるような仕組みが必要である。
- ・水源地域ビジョンということで水源地域にスポットをあてているが、広域の視点も踏まえつつ他の施策等と連携するようなものを考えていかなければと思っている。

以 上